平成 26 年度

# 学位（博士）の授与に係る論文内容の要旨及び論文審査結果の要旨

（平成 27 年 3 月授与分）

北九州市立大学大学院

社会システム研究科

# 目　　次


| 学位番号 | 学位被授与者氏名 | 論文題目 | 頁 |
| --- | --- | --- | --- |
| 甲第８２号 | 楪　直美 | 家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究<br>－家族介護者の介護力向上のために必要な看護支援の検討－ | 1 |
| 甲第８３号 | 符　方霞 | 王充『論衡』に引用される古典についての総合研究 | 5 |

| | |
|---|---|
| 学位被授与者氏名 | 櫟　直美（いちき　なおみ） |
| 学位の名称 | 博士（学術） |
| 学位番号 | 甲第 82 号 |
| 学位授与年月日 | 平成 27 年 3 月 26 日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則（昭和 28 年 4 月 1 日文部省令第 9 号）第 4 条第 1 項該当 |
| 論文題目 | 家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究<br>－家族介護者の介護力向上のために必要な看護支援の検討－ |
| 論文題目（英訳または和訳） | Research on Cooperative Care Models to Support Adaptation of Family Caregivers to Caregiving:<br>Study of Nursing Support Required to Raise Caregiving Competence of Family Caregivers |
| 論文審査委員 | 論文審査委員会委員主査：<br>　北九州市立大学文学部 教授 博士（心理学）　松尾　太加志<br>同審査委員：<br>　北九州市立大学都市政策研究所 教授 修士（社会学）　石塚　優<br>同審査委員：<br>　人間環境大学看護学部 教授 博士（都市科学）　三徳　和子 |
| 論文審査機関 | 北九州市立大学大学院社会システム研究科 |
| 審査の方法 | 北九州市立大学学位規程（平成 17 年 4 月 1 日大学規程第 96 号）第 10 条各号の規定に基づく学位授与判定による |
| 論文内容の要旨 | 本論文は，在宅で介護を継続していくために家族介護者が「介護力」を獲得するための支援方法と，その支援を組み込んだケアモデルの提案について論究したものである.「介護力」とは何かを明らかにし，家族介護者への総合的支援について様々な要因を検討することで，家族介護者の実態に即した看護支援を含む多職種連携での支援方法を提案することを目的としている.<br>第 1 章では，我が国の家族介護者を取り巻く状況および介護生活の実態について事例を提起し 2 つの課題を明らかにしている．在宅介護を継続するためには家族介護者自身のもつ「介護力」を引き出すことと，そして，この「介護力」を獲得し効果的に活用するために，新たな看護支援を開発し，多職種が連携した協同的ケアが必要なことである.<br>第 2 章では，介護力を明らかにするために，国内外の文献検討及び家族介護者へのインタビュー内容を質的帰納的に分析することにより介護力の構成要素を明らかにしている．その検討により，第 4 章で実施する調査のための「介護力」についての質問項目として「介護力」の構成要素として 38 項目を設定している.<br>第 3 章では，要介護者とその家族介護者を取り巻く社会資源を最大限に活用していくための多職種連携の在り方についての協同的ケアモデルの概念を提起している．現状のケアマネジメントの課題として，家族介護者の「介護力」の強化を図るようなインフォーマルサポートを組み込む必要性を述べ, その上で, 協同的な支援関係を構築し，ケアの必要性にそった支援を行うための人的・物的な資源の量や内容の調整といった役割をもつケアコーディネーションの機能を含める協同的ケアシステムの概念図を作成している.<br>第 4 章から第 6 章では，家族介護者の介護力を測定する質問紙を作成し，在宅で介護を継続する家族介護者を対象に調査を実施している．質問紙では家族 |

| | |
|---|---|
| | 介護者の特性，要介護者の特性，介護状況，介護関連ニーズ，介護力に関する内容が含まれ，有効回収数は 661 であった．<br>調査結果から家族介護者の介護力について，「介護を肯定的にとらえる力」，「介護ケア実践力」，「自己の健康管理力」，「介護生活からの転換力」，「周囲の援助活用力」，「介護に対する負の感情表出力」の 6 因子から構成されることを示し，これらの介護力因子が介護負担感に関連する要因を明らかにすることで，介護負担感を軽減するための支援方法について検討を行った．さらに，介護力に関連した介護関連ニーズの特徴から“看護師に対するニーズ”を導き出し，介護力を獲得するための看護支援について多角的に分析を行い検討している．<br>第 7 章では，6 章までの調査結果の分析に基づき，2025 年を目途に推し進められている地域包括ケアシステム構築という社会システム全体の中で，家族介護者の位置づけを考え，その上で，フォーマルサービスのみならずインフォーマルサポートを組み込んだ多職種連携でのケアの方向性について検討している．具体的には，通所系サービスでの専門職によるインフォーマルサポートや家族会の機能が「介護力」向上へどのような効果をもたらすかを検証しつつ，自治体のケアコーディネーションの役割に言及している．<br>第 8 章では，まとめと課題として，限られた社会資源の活用には，家族介護者の持つ「介護力」を引き出し，獲得することが重要であることが述べられ，介護力の要素にそって，高めていくべき支援と，高まり過ぎる要因への介入により予防的に関わっていく支援とを見極め，看護師の役割を明確にした上で，多職種が協同したケアの構築が必要であることが提言されている． |
| 論文審査結果の要旨 | 本論文で明らかにしたことは，介護力とはどのようなもので，それが介護負担感にどのような影響を与えているか，そして，介護力を高め介護負担感を減らすためには，どのような看護ニーズを必要としているのかである．さらに，そこで得られた結果から，どのような協同的ケアシステムを構築すべきかの提案をしたことである．<br>介護は家族介護者にとって大きな負担であり，社会問題となっている．現在の保健医療福祉政策では要介護者に対するサービスは提供されるが，家族介護者の生活の質を保障するには限界がある．そのような社会的背景を踏まえ，本論文では，ただ単純にどのようなサービスが必要かを論じたのではなく，家族介護者のもつ介護力を引き出し，どのような看護支援が必要なのかを質問紙調査を通して明らかにしようとしており，社会的要請に応えようとした意義深い論文である．<br>介護力については，それを構成する要素がどのようなものであるかを検討し，家族介護者を対象とした質問紙調査によって，介護力の因子を明らかにした．そこで抽出された因子は，「介護を肯定的にとらえる力」，「介護ケア実践力」，「自己の健康管理力」，「介護生活からの転換力」，「周囲の援助活用力」，「介護に対する負の感情表出力」の 6 つの因子である．ここで特徴的なのは，介護力について介護を実施するために発現する行動の力といったものではなく，認知や情意のレベルにまで広げて検討したことである．本論文では「介護力」を経験のない介護の対応方法に苦慮しながらも，試行錯誤のうちに効果的ケアや創造的介護を実践することで，介護に意味づけや価値を見出し，介護を通しての自己成長感を実感しつつ自己実現を促進していく力であると捉えている．<br>とくに介護をネガティブな視点としてとらえるのではなく，介護を受容して |

| | |
|---|---|
| | いくためには介護肯定感を得られるような動機づけの力が重要であると考え，介護する者への情緒的かかわりの中で愛情や信頼，自信といった肯定感が何よりも重要であり，因子として「介護を肯定的にとらえる力」が第一因子として抽出されたことは，本論文の研究の視点を象徴しているものである．<br>これらの介護力因子が介護負担感に影響する要因を検討したが,「介護を肯定的に捉える力」因子,「介護生活からの転換力」因子を高めることが介護負担感を軽減させることにつながっていた．しかし,「介護ケア実践力」因子や「介護に対する負の感情表出力」は高くなることで，介護負担感も高まることから，介護を積極的に受容することで燃え尽きに繋がっていないか，これらを高めた要因に介入するような支援が必要であることが明らかにされている．<br>さらに，具体的な支援を導き出すために，介護関連ニーズの特徴を明らかにし，どのような支援が必要であるか以下のように検討を行っている.「介護を肯定的に捉える力」因子を高めるためには，看護と介護が連携して要介護者の状態にそったより良い介護の工夫について情報提供や，実践方法を獲得するための学習会等の教育的支援が有効である.「介護生活からの転換力」を高めるためには，地域住民や当事者同士による相互支援，あるいはボランティアによる要介護者の生活支援等が必要である.「介護ケア実践力」因子及び「介護に対する負の感情表出力」因子を適切に保つためには，看護や介護の経験者でのボランティア介入により，迅速に相談・援助ができる体制づくりが求められる．またケアマネジャーと連携したレスパイトケアも活用していく.「自己の健康管理力」因子と「周囲の援助活用力」因子については，地域の健康指導や健康教室への参加を促し，健康づくりや仲間づくりを促すことが効果的であるが，男性や孤立した家族介護者へは，自治体が主体となって地域全体で支援していく仕組みづくりが必要である．<br>このような結果をもとに，協同的ケアシステムの提案を行っている．従来の介護保険制度に位置づけられるフォーマルなサポートに加え，地域において多職種の専門者が連携してコーディネーションを行うインフォーマルなサポートが家族介護者になされるというスキームである．通所系サービスでの専門職によるインフォーマルサポートや家族会の機能が「介護力」向上へどのような効果をもたらすかを検証しつつ，自治体のケアコーディネーションの役割に言及している．<br>本論文で提案された協同的ケアシステムはまだ机上のものにすぎず，実際にそのシステムを構築していく上での課題はかなり大きいが，どのようなサポートが必要であるかを質問紙調査によって実証的に検討したことは高く評価できるものである．調査対象者が家族介護者であることを考えると，その質問紙の設計,質問紙回答実施に至るまでかなり高いハードルであったと想像されるが,質問紙の分析にまで至ったことは十分に評価できる．介護力，負担感，介護ニーズについての一時点での調査であり明確な因果関係を見出すまでには至っていないが，その関係性についての詳細な分析によって，どのようなニーズをサポートすることが介護力を高め,負担感を低減できるかを明らかにしたうえで,協同的ケアシステムを提案しており，今後のさらなる研究も期待できるものである．<br>平成 27 年 2 月 20 日に，北九州市立大学北方キャンパス 4 号館 4-301 教室において，審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し，論文の |

| | |
|---|---|
| | 説明を受け，質疑応答ののちに，全員一致で当該論文が博士(学術)として十分な内容であると判定した. |

| | |
|---|---|
| 学位被授与者氏名 | 符　方霞（ふ　ほうか） |
| 学位の名称 | 博士（学術） |
| 学位番号 | 甲第 83 号 |
| 学位授与年月日 | 平成 27 年 3 月 26 日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則（昭和 28 年 4 月 1 日文部省令第 9 号）第 4 条第 1 項該当 |
| 論文題目 | 王充『論衡』に引用される古典についての総合研究 |
| 論文題目（英訳または和訳） | A Comprehensive Study on the Allusions and Quotations in *Lun Heng* |
| 論文審査委員 | 論文審査委員会委員主査：<br>北九州市立大学大学院社会システム研究科 教授 博士（文学）　鄧　紅<br>同審査委員：<br>北九州市立大学大学院社会システム研究科 教授 法学博士　横山　宏章<br>同審査委員：<br>東京学芸大学教育学部 准教授 博士（文学）　井ノ口　哲也 |
| 論文審査機関 | 北九州市立大学大学院社会システム研究科 |
| 審査の方法 | 北九州市立大学学位規程（平成 17 年 4 月 1 日大学規程第 96 号）第 10 条各号の規定に基づく学位授与判定による |
| 論文内容の要旨 | 本論文は、六節に分けて中国漢代の大思想家である王充の著作『論衡』に現れる典故の引用状況を研究対象とした。<br>「第一章　序論」では、『論衡』の作者王充の生涯、『論衡』の内容及び論文の目的と方法を述べた。<br>「第二章 『論衡』各篇に引用された典故の概況」では、『論衡』に引用された典故の状況を徹底的に調べたうえで、網羅的にピックアップし、番号を付けた。その作業によって、『論衡』の古典引用の全ての状況が明らかになった。<br>「第三章　人名索引」では、『論衡』に登場する人物の名前と登場する回数を丹念に調べ上げて、索引をまとめた。<br>「第四章　出典表」では、『論衡』に引用された中国古典書籍の出所を調べて、表にまとめた。<br>「第五章 『論衡』古典引用状況の総括と分析」では、『論衡』における古典引用状況を総括し、出典が最も多い孔子と『論語』の引用状況を分析した上で、王充の孔子観を明らかにした。<br>「第六章　結語」では、論文の内容をまとめて、今後の展開を提示した。<br>上記の研究によって、符氏は独自の王充『論衡』研究を行うことができ、以下に述べる成果を得た。 |
| 論文審査結果の要旨 | （1）本研究は従来型の『論衡』研究と一線を画したものである。王充が唯物主義者（合理主義）か、それとも唯心主義者（非合理主義）か、あるいは王充の哲学思想は分野ごとに如何なものなのか、王充はどのような批判主義者か（いわゆる「疾虚妄」）というような抽象的な理論の叙述にこだわらず、『論衡』の古典引用状況に焦点を合わせ、事例、人物、古典の出現状況だけを研究対象とした。『論衡』出典状況の調査、「人名索引表」と「出典表」にまとめる調査データの統計、具体的な数字に基づく特殊引用事例の分析など、この一連の研究手法は斬新的で、学術上の独創性が認められる。<br>（2）王充の『論衡』は「中国古代の大百科全書」とよくいわれる。しかし、その言い方には明白な裏付けがなかった。符氏の独創的な研究手法に |

| | |
|---|---|
| | よって、王充および『論衡』の学識の広さが具体的に明らかになった。また、『論衡』に出てきた数多くの人物、書物、歴史事例についての基本データが出来上がったことで、人物の取り扱い、歴史事例の論述、古書の引用と王充思想との関連性が著しく把握しやすくなった。さらにそれによって、王充が古代から漢代までの歴史書、経書および他の古典文献など具体的にどのような書物を読破したかが明らかになり、王充思想の由来、論点の根拠、思想発展の軌跡、知識構造を、具体的、説得的に究明できる方向性が示された。その意味で、本研究は先行研究にない独自の価値を有すると認められ、当該分野の研究の発展に一定の貢献をなしていると評価される。<br>（3）本研究は、『論衡』に出てきた数多の人物、書物、歴史事例の基本データを明らかにしたことによって、今後の王充研究者に大変な便利性を寄与したものと言える。<br>（4）符氏の研究は、独自の調査とデータの作成にとどまらず、調査の結果に基づき、引用回数の最も多い孔子と『論語』の研究を試みた。それによって、王充の孔子聖人観の真相が一層わかるようになった。<br>平成 27 年 3 月 5 日に、北九州市立大学北方キャンパス 3 号館 3-320 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が博士(学術)として十分な内容であると判定した。 |

平成 26 年度学位（博士）の授与に係る論文内容の要旨及び論文審査結果の要旨　第 18 号　（平成 27 年 3 月授与分）

発行日　2015 年 3 月

編集・発行　北九州市立大学　学務第一課

〒802-8577
北九州市小倉南区北方四丁目２番１号
電話 093-964-4021